

ドキュメンタリー 乗って残そう・養老鉄道 養老鉄道西大垣駅の1日

平成26年8月発行 レポーター 中野朝輝



三重県の桑名駅から浜で有名な養老。水の都大垣を通り、自然と森の町揖斐までの57.5kmを走る養老鉄道。最近では利用者が少なくなり、存続に向けて努力が続けられていますが、私たち地元の人たちにとって大切な鉄道です。今回はこの養老鉄道が快適・安全に走るために、養老鉄道の指令とう「西大垣駅の1日」を取材し、ドキュメンタリーでご紹介します。



養老鉄道 運転のかなめ「西大垣駅」

西大垣駅には養老鉄道の本社があり、全線の運転の状況をまとめています。助役は列車の発着をホームで見守り、全ての駅の業務が正常に行われているか連絡をとります。審査係はキップが正しく発券されているかを計算し、全ての駅の売り上げのまとめも行います。



列車を発車させる山田助役さん キップはみんなて売ります。

信号係は列車が通るたびに駅の信号やポイントを切り替えて進路を確保します。「確認喚呼」といって、指差しと声に出して1つ1つの作業を確認し、電車の安全な運行を確実に守ります。



西大垣駅ホームの横にある運輸管理所には33名の運転士さんが所属し、養老鉄道の電車を運行しています。運転士さんは一度出勤すると24時間勤務が基本です。電車に乗る前には点呼を行い、運行区間の障害や天気の状態、工事・徐行の箇所などを確認、乗務手帳に書きこんで電車に向かいます。1回の運転は2~3時間、休けいをはさんで運転を行い、夜は運輸管理所が終電が停まる駅で仮眠し、翌朝から再び運転、お昼頃に交代の運転士さんに引き継ぎます。



ここが運輸管理所で西大垣では運転士さんの多くが交代します。

運転士さんは乗務前にアルコールテストも行い安全運行に努めます。



運転をまとめる「運輸管理所」

安全に電車を送り出す「大垣車庫」

西大垣駅には養老鉄道を走る3線の電車が所ぞくする大垣車庫があります。運転室や車内、屋根の上から車輪の下まで細かく点検します。調子の悪いところが見つければ部品を交換したり修理して、検査に合格した電車だけがお客さんを乗せて走ることが出来ます。



屋根上からパンタやクレーラ 下から車輪やモーターもチェック



養老鉄道の電車は法律で決められた日数ごとに検査を行い、合格した電車だけがお客さんを乗せて走ることが出来ます。こうして私たちは安全に養老鉄道を利用することが出来るのです。



養老鉄道は合理化によってワンマン運転が行われています。運転士さんは運転だけでなく、ドアを開けたり車内放送をしたり、駅の清掃も行います。安全に電車を走らせることはもちろんのこと、お客さんが快適に電車に乗ってもらえるようにブレーキのかけ方や発車のショックがないように工夫して運転しています。当たり前前に走っている電車も、実は運転士さんの細かい気遣いがあるって、気持ちよく乗ることが出来るんですね。ありがとうございます。

「安全は当たり前」「お客様に快適に乗って頂けるように心がけています」と伊藤運転士さん



運転バンの中身

電車を安全に走らせる「運転士」さん

養老鉄道 お客さんを増やすための工夫

養老鉄道では利用者を増やす様々な取り組みをしています。私たちもどんどん養老鉄道を利用しよう！



■築港列車

電車でおいしい食事をしながら養老鉄道の旅へ！

■ラビット&センロク

昔の電車の色を懐かしなつかしい電車が走る

■サイクルトレイン

電車に自転車持ちこみOK サイクリングへ

編集後記 取材を通して

取材を通していつも当たり前に乗っている養老鉄道が、実は多くの人たちの手によって安全運行されている事を知りました。今後は私も養老鉄道をもっと利用し、いつまでも地域の鉄道が走り続けるようにしたいと思います。最後になりましたが、今回取材にご協力下さいました山田助役様をはじめ養老鉄道の皆様に感謝申し上げます。

